

創

—第66回—

心の自由まで縛られてなるものか

コロナ禍は本当にきつい。特に飲食店や観光に携わる皆さんにとっては、散々痛めつけられた挙句、どこまで我慢すれば良いのか！そんな心の叫びが聞こえてきます。事業者のみならず、全ての市民の皆さん方も我慢を強いられ自由を奪われる生活が続き、ストレスも限界でしょう。誰のせいでもないけれど、こんなに苦しいと普段許せる事や些細な事でも他を責め、攻撃的になります。誰のせいでもない事は政治や行政が引き受けるしかない。と常に私は思っています。そして政治はもう少し国民生活に敏感に、寄り添う気持ちを持たなければならぬと感じています。市の範囲を超えた事に対しては、これからも大きく声を



別府市長
長野 恭紘

あげていきます。感染予防も一人一人の心がけなら、大好きな別府のまちの未来も、一人一人の気持ちにかかっています。だから私は努めて明るいニュースを発信するようにしています。が、残念ながら別府の寂しい場面や悪いニュースを積極的に出される方々もいます。

表現の仕方は人それぞれ。しかし、負けるもんか！応援するぞ！いつか行くから頑張つて！と思っただけの発信を今は大切にしたいのです。

こんな時だからこそ私たちは試されている。経済や行動の自由は奪われても、心の自由まで縛られてなるものか。いつも自分にそう言い聞かせ、心の炎を燃やしています。



フォトべっぷ



夏の成人式—延期していた「令和3(2021)年別府市オンライン成人式」を8月14日に開催しました。新成人を代表し、佐藤のうさんがこれまでの感謝の気持ちと未来に向けての新たな意気込みを堂々と誓いました。



防災意識の向上—9月4日から2日間、トキハ別府店で「別府市防災フェア」を開催しました。訪れたお客さんは、防災バッグや備蓄用品などを手に取り、災害に備えるために必要なものをそれぞれ購入していました。



地域活動の拠点として—8月31日、朝日大平山ひとまもり・まぢまもり協議会の「事務局開所式と防災訓練」が行われました。事務局の開所は市内7協議会の中で初めてとなり、地域の課題解決に向けた活動の拠点として使用されます。



溢れる闘志—東京五輪フェンシング女子フルーレの個人と団体で6位に入賞した上野優佳さんが8月20日、長野市長に入賞報告を行いました。上野さんは時折悔しい表情を滲ませながら、「パリでは金メダルを獲得したい。」と力強く語りました。